

令和元年度第2回浦河町社会教育委員会議 議事録

■日 時 令和元年11月13日(水) 18:30

■場 所 浦河町総合文化会館 3階 ふれあいホール

■出席者 14名

津澤静子委員長、金澤 覚委員、木田理博委員、高塚富士美委員、武田宗務委員、
奥村桂祥委員、松本正美委員、坂本廣子委員、三浦敦子委員、野上由佳委員、
関口明子委員、小林光紀委員、米山 豊委員、向谷地悦子委員

■欠席者 6名

吉瀬献策委員、菅 正輝委員、谷川雅隆委員、奈良淳弘委員、大野初美委員、
久保珠里委員

■事務局

浅野教育長、和田課長、須甲課長補佐、民部課長補佐、石黒主幹、
那須野主査、武田主事

■議事次第

1. 教育長あいさつ

2. 委員長あいさつ

3. 全体会

第7期浦河生涯学習推進中期計画全体構造について
(別紙資料に基づき事務局より説明)

4. 部会

- ・中期計画策定部会
- ・家庭教育推進運動部会
- ・地域学校協働活動部会

5. 全体会

(各部会からの発表)

【家庭教育推進運動部会】

家庭教育推進とはどんな活動のイメージかと。アウトメディアとかいろいろ言われている。まず、子どもたちの生活習慣を定着させようという部分が大きいのので、子どもたちはどういった時間ができるかということをも4つに分類して話し合った。学習習慣は学年×10分+10分以上ということで、小学6年生だと1時間10分以上は勉強をしないとイケないということになる。運動については、運動習慣の定着について1日60分以上、読書については、

1日10分以上、睡眠時間はどのくらい確保できるかということ、アウトメディアについて、テレビやスマホ、ゲーム等をする時間を1日2時間以内にしましょうというのは難しいということが現実で。実際に子どもに自分が伝える時に、テレビを見るなどかゲームをするなどかそのようなことを言うのではないかと思ってしまう。実際に難しいかどうかということ、1日のスケジュールを作って、自分が子どもだったらどんなスケジュールになるのかというのを行った。小学5年生という設定で勉強を1時間以上で60分運動する、とするとご飯を食べる時間が5分くらいかという時間になる。そこで、どうしたら定着するかというのを考えようということで話し合った。学習習慣は、親と一緒に子どもと勉強する時間を作る、毎日子どもの学校で書いているノートを見る、夕食前に勉強をするようにする、家の手伝いをお小遣い制にする、小中学校でクイズ大会をするなどの意見があがった。運動習慣については、家の犬の散歩をさせる、買い物を子どもに任せる、お小遣い制にして手伝いをさせて運動させる等があがった。読書については、読んでいる本の感想を言う、身近に本を置く等があがった。その他については、子どもの端末を親に預ける、親も仕事以外でスマホなどを見ない時間を作る、ものごとに順番をつける等が出た。テレビやパソコン、スマホを見る時間が多い、時間を確保するにはアウトメディアをする。最低でも2時間以内のテレビ等の時間にするというのがひとつあげられる。もうひとつは、児童館に子どもたち通っているので、児童館にいる時間で家庭学習をすれば家に帰った時に確保しなくてもいいのではないかということもある。アウトメディアをどのように進めていくか、家庭でもだが、浦河町全体でどのように取り組んでいくかということを考えていきたい。例えば、防災無線を使って「今から勉強の時間です」というようなのを流すと町全体で取り組むことになる。登下校で自転車や車の送り迎えがあるので必ず歩く日を作り、この日は全町的に取り組んで危なくないように防犯にもなる、こういうのも一つの手ではないかということになった。

【地域学校協働活動部会】

地域学校協働活動とはどういう仕組みなのかということをもとに説明した。その後、学校側としては地域学校協働活動に対してどのようなことをして欲しいとか、地域の人ができるか、地域と学校と一緒にこういうことをやりたいということをお話し合った。具体的に出てきたのが、部活動などで運動経験のない先生、例えば、バスケの顧問になった時に地域で出来る人が協力をするということや職業体験の受け入れ先がなかなかみつからないというのもあり、いろんな職業に就きたいと思ってもできない。学校で運動会や学習発表会をやるとなった時に地域の人たちが集まって学校を介して地域のコミュニティーが作られていたのが、学校がだんだん減っていったような機会も少なくなってきた。小学校をベースにしていたのが今は自分たちの学校だという意識が少し希薄になっているのではないかという話しも出た。その地域の人たちが自分たちの学校、その地域の子どもたちを育てていこうという意識がないとコミュニティースクールもうまく進まないのではないかということで、具体的な案として出てきたのが、少年団が地域のコミュニティーとして機能して

いて、例えばスケート少年団に入ることによって学校ではクラスの少年団は少年団のコミュニティーができ、そこで親同士もつながる。親も少年団にいる子のことも分かるし、保護者同士のやり取りも出てくるので保護者の成長にもつながるというのがあって、少年団をベースにすすめていけたらいいのではというのが出た。他には浦河町地域スポーツクラブみたいなものを設立して、各コミュニティスクール単位で曜日ごとに種目を変えて、例えば、月曜日はバスケット、火曜日はバレーというように種目を変えて、その興味のあるスポーツにその地域の学校にそのスポーツができるようになっていったらそこで、地域の子ども達もコミュニティーができ、親同士のつながりで協働活動できるのではないかとということになった。

【中期計画策定部会】

どのような中期計画を作っていったらよいかということで話し合いをした。まず、中期計画を策定する前に社会教育ではどんな事業をしているのかというのをおさえながら話しを進めた。その中で、今まで通りの事業を展開しているのか、時代にマッチしたものの実効性のある計画にしましょうという話になった。具体的にどういうものがあるのかということで、浦河は災害の多いまちで防災を、あとはDVや虐待など地域ぐるみで取り組んで土台が合っていてそこに社会教育がどのように関わっていくかということを実案に入れて取り組んでいきたいとその部分の策定と今日は話しをした。実のある実効性のあるものを作っていきたいと思いますということになった。

6. その他

日高管内社会教育協議会研修会の開催について
(別紙資料に基づき事務局より説明)

7. 閉会